

平成 28 年度 第 1 回 尼崎 21 世紀の森づくり協議会 議事録

日時 平成 28 年 9 月 29 日 (木) 9 時 45 分～11 時 45 分

場所 尼崎の森中央緑地パークセンター会議室

■会長挨拶

尼崎 21 世紀の森中央緑地は非常に画期的であり、このような公園としては、おそらく世界の三本の指に入るであろう。本日の配布資料のパンフレットに「明治から大正、昭和、平成、100 年後」というように書かれており、これが、これから的地方創生や地域活性化を考えていくうえで非常に大事になる部分である。高度成長期に建設し、その後一度廃棄された土地を再活性化して自然に戻すという、まさに地球レベルの潮流が、このパンフレットに記載されている明治から 100 年後までの間の出来事である。また、この地域に存在する 100 年分の産業遺産についても記載されており、運河のこととも記載されているが、もう少し中央緑地のことも書いていただきたかった。このような歴史をもつベースとなる土地があり、その上に森をつくるという取組と、産業遺産等が融合すれば、おそらく世界最先端のものになる。

先日、人と自然の博物館から大阪府立大学へ転勤した先生が翻訳された「パブリックライフ」という本が出版された。我々の時代では「パブリックスペース」などというように、公園や広場といったハードばかりを対象としていたが、この「パブリックライフ」では、公共空間でどのような生活行動をするのがよいかという、人々の生活行動から公共空間を見直すという趣旨で書かれている。これに当たることが、尼崎 21 世紀の森づくりの中で動いていると確信し、我々の取組がすばらしいことであると再確認したところであるので、本日も活発にご議論いただきたい。

■委員紹介

委員交代について事務局から説明し、新たに就任された委員を紹介した。

■議事 1 平成 28 年 1 月以降の主な取組

○資料説明（事務局）

資料をもとに、「平成 28 年 1 月以降の主な取組」について事務局より説明した。

○意見交換

会長 : 主な取組については、よくやっていただいている。特に一番目（森の子育てひろば）のようなことに積極的に取り組んでいただきたい。

■議事 2 平成 27 年度 第 2 回協議会委員意見とその対応

■議事 3 森構想に関するアンケート結果

○資料説明（事務局）

資料をもとに、「平成 27 年度第 2 回協議会委員意見とその対応」について、及び「森構想に関するアンケート結果」について事務局より説明した。

○意見交換

会長 : 資料 2 の対応案として記載されている運動会の取組は大変良いので頑張って実施していただきたい。おそらく、この地域で働いている企業の人々にとって中央緑地はなかなか来づらいところだと思うので、中央緑地へ来ていただくきっかけとなり、中央緑地について知っていただき、「次は家族を連れて行こう」と思ってもらえるような、トリガー

プロジェクトになればよい。

委員 : アンケートに関して、尼崎 21 世紀の森構想についてというより、森について知つてもらう必要がある。森構想と言われても、森づくりのことだと思われていない。中央緑地は、森というよりも公園だと認識されており、その中の森づくりというのは、はじまりの森のことを指していると勘違いされているように思う。20ha という壮大な森をつくろうとしているということすら知られていないのはもったいない。甲子園球場 7 個分とか、すばらしい森ができるということで森づくりをもっとアピールするべきである。また、森構想については、深く関わる人に理解していただければよい。

会長 : アンケートの回答時には、「森構想についてどのように思いますか」という問からすぐに属性を聞くような聞き方をしたのか。あるいは、森構想に関する情報を提示してから設問に入ったのか。

事務局 : 委員にもご協力いただき、神戸新聞のミントクラブの会員を対象にメルマガ配信し、アンケート調査を行った。質問項目の前に森構想の概略についての情報を提示し、確認いただいた上で回答いただいた。また、質問項目の順番については資料 2 の最後のページをご参照いただきたい。

会長 : 森構想についての情報を提示し、認識いただいたうえで回答していただいたということでした。

委員 : アンケート結果の地域区分について、兵庫県以外の内訳は、例えば大阪からなどは把握されているのか。

事務局 : 記載の通り、兵庫県内 10 地域以外については兵庫県以外で一括りにしており、把握していない。

会長 : 資料 2 の産業遺産に関する記述について、私の考えでは、産業遺産というのはハコモノだけではなく、この土地自体が対象となる。この土地がなぜこのような形で残っているのかということに後世の人々は驚くであろう。そのような土地のことも含めて産業遺産を捉えてほしい。大阪空港では飛行機の発着陸前後の航路の真下にあたる地域を帶状の緑地にしようとしており、将来的にはめずらしい帶状の空間ができると考えられるが、これも産業遺産になるかもしれない。そのような意味合いで、尼崎における産業遺産の考え方も次の段階へ進んでいただきたい。

また、資料 2 の雨水タンクに関する記述について、「時代遅れになりつつある」というのは、「中央緑地では」という趣旨であって、街中ではどんどんやっていただきたいがまわない。中央緑地では単なる雨水タンクとして設置するよりも、雨水を直接植物へ流すようなものにした方が良いのでは、という趣旨で発言した。そのため、この現場では時代遅れである、という趣旨に修正願いたい。

■議事 4 行動計画改訂版（素案）

○資料説明（事務局）

資料をもとに、「行動計画改訂版（素案）」について事務局より説明した。

○意見交換

- 委員 : 事務局代表として補足説明をさせていただきたい。協議会の目的のひとつとして行動計画の改定を挙げており、今回、事務局案として素案を提示させていただいている。特に7,8頁に改訂の視点を示しており、まず一つ目は、着実に成果を挙げているものについては今後も推進し、発展させていくという考え方である。二つ目は、具体的な活動に結びついていないものも当然あり、特に産業関係の部分や、緑化の取組も十分に広がっていないことや、研究所をつくるというような壮大な取組も記載していたが現実的には難しいため、今後は「工場コミュニティの推進」に示すように、活用していただくということで新たな視点で組みなおすという考え方である。三つ目は、社会経済情勢の変化や新たなニーズへの対応ということで、一つは子育ての場としての活用、2つ目に健康で豊かな生活の実現として、スポーツ利用等への発展について示している。具体的には9,10頁に新規の活動を示しており、「1. 環境の回復・創造、美しい風景の創出」の分野では、子育てに関連する活動を挙げている。「2. 活力ある都市の再生」については、ご指摘いただいているアクセスの改善について、バス路線の利便性を高めることを挙げている。また、「健康・福祉、スローライフを実現する森の利活用」ということで、ハーフマラソン大会のレガシーを活用したランニングコースの設定や、尼崎市で実施されている「自転車まちづくり」と連携した取組について記載している。「3. 既存産業の育成・高度化と新産業の創造」については、なかなか取組を進められていないが、企業の福利厚生事業や、緑化については企業の方々にもご参加いただく検討会による推進ということを挙げている。「4. 気運の醸成」については、森の会議の更なる活躍やファミリークラブの設置等について挙げている。あくまで素案であるため、更なるご意見をいただきたい。
- 委員 : 今年の夏も多くの活動をさせていただき、先程ご紹介いただいた活動のうち半分以上に参加させていただいた。その際に絶対必要だと感じたのが、屋根のある場所である。現在、暑いときに逃げ込める場所がない。ミストシャワーや子ども達が遊ぶ噴水施設のようなものか、もしくはプールから遊びに来ることができる芝生広場というようにすべきだと、暑い日に感じた。
- また、Google Map の記載がずっと間違っており、敷地が緑に塗られてさえおらず、公園として表現されていない。尼崎運河も同様の状況であり、北堀運河や東堀運河という名称も出てこないし、尼ロックの表示すら適切ではない。一市民の働きかけではどうにもならないので、県からの働きかけにより、きちんと整理されることを期待している。
- 会長 : 夏場は必ず日除けが必要になる。
- 委員 : それも、景観を乱さないものでなければいけない。
- 会長 : Google Map の件についてはどうか。個人で写真を投稿するなどしてはどうか。
- 委員 : 個人としていろいろと試してはいるが、県から働きかけていただいた方が確実だと思う。

- 委員 : ご意見いただいたような要望を出してはいるが、公共機関から働きかけてもなかなか難しいという現状もあるため、是非皆様からの働きかけもお願いしたい。
- 委員 : 取組については網羅されているように思うが、森づくりを将来へ引き継いでいくための取組をもっと前面に出すべきである。森構想は我々の時代では終わらない話なので次世代へ引き継いでいく必要があり、そのためには学校の生徒児童にいかに参加していただくかが重要となる。具体的には、学校単位で苗木の里親になっていただき、各校で育てて中央緑地で植えていただくとともに、森構想や森づくりについて知ってもらうようなことはできないか。
- 委員 : 市教育委員会では4年生を対象とした「環境モデル都市あまがさき探検事業」として、市内41校中30数校が毎年中央緑地で植樹や植替えをさせていただいている。これに関してアンケートを実施した結果からは、子どもを介した保護者への啓発効果が大きく、学校を通じて取組を拡充していただければ啓発も進むと考えられる。
- 委員 : 今のお話について少し訂正したい。4年生の環境体験で植樹を是非していただきたいのだが、滞在時間が非常に短く植樹はできていない。他の立ち寄り場所との兼ね合いで滞在時間が非常に短いため、見学やネイチャーゲームで雰囲気を味わっていただくことしかできていない。3年生についてはアマフォレストの会で受入れを行い、1回4時間で実施しているため、その中で植樹ができ、子ども達もとても喜んでくれている。環境学習としてこれだけの時間を割いて来ていただくことも難しいと思うので、各校で里親として苗木を育てていただき、植樹に来ていただく機会を設けた方が、取組に広がりがあるのではないか。
- 会長 : 環境学習について、霞ヶ浦の「NPO アサザ基金」では、市内全小学校にアサザの育苗を働きかけて霞ヶ浦に植える取組をしている。一度視察を検討されるとよい。
- 委員 : 今年は、これまでで最も来園者数が多かった「森の文化祭」をお手伝いさせていただき、その際は尼崎社協の諸支部の方々にご協力をいただいた。その際の皆さんのお意見として、平日に中央緑地を一番使うのは私達ではないかというお話があった。地域の皆さんと、大庄の人々が「平日に行けるようになったらいいのに」とおっしゃっていた。これまでの取組を見ると、土日のイベントが多く、こんな良い場所があるので平日になかなか活用されていないことに対して、何か策が必要であり、その点では地域との連携が一番大事である。その際に大事なのがいつも話題になっているインフラバスの充実である。子どもからは、「子ども達が自分達だけで自転車で來るのは難しく、バスルートがなければ大庄からはすぐには來られない」というお話があった。また、高齢者の方々からは、「中央緑地にふらっと來ても、とにかく広すぎてベンチも無く、端から端まではとても歩けない」というお話があった。また、「森の文化祭」の際に初めて來たという人がとても多かった。
地域の皆さんに足を運んでもらうためには、ふらっと来て利用できる設備が必要である。例えば、ベンチももっと必要であるし、都市公園なので難しいことは分かっているが、バーベキューができるとか、「ちょっと使ってみようかな」と思えるような設備が必要である。以上が「森の文化祭」の開催時に大庄の皆さんからお聞きした感想である。

行動計画改定案の中にも地域連携について書かれているが、地域と連携するような内容が具体的な名称としてあまり書き込まれていない。大庄の皆さんからは、「森の文化祭を来年も頑張ってやってみよう」というお話も出ているので、中央緑地が、「この時期地域のみんなとこんなことをやります」と掲げれば、随分と足を運ぶ人も増えるのではないか。

また、森の会議について、大きな役割が書かれている。この協議会と森の会議で議論されたことによって森構想が動くというような大きな位置づけとして役割が書かれているが、森の会議に関わられているのが現在 20 人程であり、新しい人々の参加はあるのか、また、新しい人々を呼び込むような策をとられているのか、という 2 点についてお伺いしたい。

事務局 : 森の会議については、毎月 1 回開催しているが、地元にネットワークを持つコーディネーターを中心に活動しており、少しずついろいろなところにお声掛けさせていただき、新たなつながりをつくりながら新しいメンバーにも参加していただいているところである。

委員 : 森の会議と地元とは距離が近くない。森の会議をこれだけ大きな存在として位置付けると決め、中央緑地で市民が企画をしてイベントをつくっていくと書かれているように読める。自主的、主体的にグループや実行委員会を立ち上げて活動団体同士の意見交換や連携を促す役割を担うということなので、活動をしている人たちを応援しながら森づくりを何とかしていきましょう、という位置付けのはずであるが、連携がなかなか進んでいないように見える。そのため、もっと様々なところに声をかけていただき、自主的、主体的なグループの人たちが森の会議に参加し、「中央緑地を使えるな」と思ってもらえるようなしくみづくりが必要である。例えば、中央緑地で音楽イベント等を開催されている方々に対して、森の会議に参加してもらうような働きかけをされているのか。つながっていない、輪になっていないと思うので、うまくつなげて欲しい。「面白いことやりたいな」と思っている人はたくさんいるので是非頑張っていただきたい。

会長 : 支援型で活動する方と、テーマ型で活動する方をミックスしたような団体が必要であるが、現在はテーマ型の活動が多いのではないか、というご指摘である。丹波並木道中央公園へ一度見学に来ていただくと、ありとあらゆる活動を地元の方々が支援型で実施されていることがよくわかる。地域密着とテーマを持った人々をどのようにうまく融合していくかということに、まず始めに取り組んでいただきたい。そして、それが始まってから、その後どう展開していくかも重要である。

委員 : 行動計画改訂版の内容を見ると、すごく多様で関わる人もたくさんいる。関わる人がたくさんいるということから相乗効果が生まれるような提案として、取組方針や取組内容ごとにスターづくりをして、2020 年のオリンピックイヤーにあわせて集うようなことができないか。ある側面人材育成にもなる。例えば行動計画の取組ごとに、「環境の回復・創造、美しい風景の創出のスター」というようなスターづくりを意識して取り組むと面白い。そして、堅苦しいフォーラムではなく、その人が「こんなことを頑張られたのか」とか「こんなことされているのか」といったことが伝わるようなことを 2020 年に開催できれば良い。紙ベースのものだけだと取り組んでいる人の顔が見えないし、何

がよいところなのか分からぬ。「この人がこんなことを頑張ったから森づくりがすすんでいる」ということがわかるようすべきである。

会長 : 2020 年に向けて、関東以外では未だ目立った動きがないが、ぜひとも取り組んでいただきたい。

委員 : 前回も発言したが、阪神高速道路の値下げの件について、先日新聞で阪神高速の料金見直しの記事を見かけ、そこには短距離は安く、長距離は高くというように書かれていた。チャンスだと思うので行政の方々に再度働きかけをお願いしたい。尼崎東海岸と尼崎末広間は、当初は 200 円で使いやすかったが、現状では一つ橋を渡るだけでも ETC で 510 円かかる。43 号線を経由すると渋滞が多く時間がかかる。この機に再度働きかけを是非お願いしたい。
また、森の会議について、この協議会が始まる以前から森づくりに参加しており、現在もアマフォレストの会に参加している。森の会議も面白そうだと思い、これまでに 2 回ほど参加した。ここでは森ができたらどのように活用しようかということについて、みんなで作戦を考えられており、面白い企画もあった。しかしながら、一方で森づくりに取り組む中、まだ完成していない森の活用について考えるのは私にとっては目的が違うと感じ、必要なことだとは思うが、それ以降は、日程の関係もあり参加はしていない。このように、アマフォレストの会や尼崎信用金庫による植樹祭といった森づくりの活動と、森が出来上がってからの活用方法を考える森の会議の活動とでは目的が異なるので、別個のもとして考える必要がある。

会長 : それらの動きの全体を把握している人はいるのか。三者がそれぞればらばらにされているのか。これをうまく連携するようなしきみを事務局で検討していただきたい。もっとネットワークを張ってもらいたい。

委員 : 委員のご意見に対して、私もそのように思う。一生懸命ここをきれいに整備されている方々とイベントを実施されている方々がバラバラである。本来はイベントとして利用する方々にも育苗など森づくりに関わっていただかないといけない。

会長 : そのネットワークづくりにも是非取り組んでいただきたい。

委員 : 中央緑地を利用するにはどうしたらよいのか、という質問をよく受ける。資料 2 において中央緑地の利用ルールについて書かれており、パンフレットを見させていただいたが、お金がかかるのかどうかさえわからない。継続的にイベントを行う人は分かるが、新しく企画を持ってくる人にとっては窓口や申込方法もわからなければ、使えるのかどうかさえ分からない。

事務局 : 会議室については県で使用料等が定められている。その他公園敷地内については都市公園なので基本的には誰でも利用可能であるが、排他的に使用される場合には別途使用料を徴収する場合がある。基本的には使用でき、イベントを実施するということになると管理事務所と相談しながら進めさせていただくことになる。

- 委員 : 中央緑地でイベントをしたい場合にはパークセンターに電話をすればよいということです。以後お伝えする。
- 会長 : 森の材を活用して、講習費を徴収するような者も出てくる可能性があるので気をつけなければならない。勉強会等の名目で人を集め、無料で公園を使い、公園の一部を独占して有料のセミナーを行うような事例が有馬富士公園でもみられた。そういうたネガティブな公園利用については公園管理者によってしっかりチェックしていただく必要がある。
- 委員 : 先程の委員のご指摘はすごく重要なことである。森の会議の事務局にはしっかり伝えたいたいと思う内容である。これを意識してコーディネートする必要があると思うが、すそ野を広げたいときに、例えば100人集めても「アマフォレストの会の活動っていいな」と思ってもらえるのは1人いるかいないかである。草刈だけではなかなか参加者が集まらないという現実は活動されている方々もよくわかっておられると思う。とにかくまずは楽しんでもらって、たくさん的人に集まってもらって、取組について知ってもらう、そしてその中から1人でも興味を持っていただけたら成功、というようなトライを森の会議ではやっている。そしてその中から、県や市ではできない活動を実施し、実績を残しておられると思うので、少し大きな気持ちで見守っていただきたい。しかしながら、委員のご指摘のようなことをコーディネーター側も意識しておかないと実現できないということは言っておきたい。
- 委員 : イベントを実施された方が森の会議に最低2回は参加しないといけないなどの決まりを設けてはどうか。
- 会長 : 森の会議に参加いただくのはぜひ前向きな方にきていただきたい。
- 事務局 : 森の会議について、我々コーディネーターがどのような考え方で取り組んでいるか少しお話をさせていただきたい。まず全ての活動の元締めのような意識で取り組んでいるわけではなく、あくまでもイベントとしてはまだまだ成熟度の低い市民の方々のアイデアや発想による企画を何とかこの公園で実現するためのお手伝いさせていただいているという意識である。そのため、すべての企画やイベントが森の会議を通じて実施されるというわけではなく、既に企画としてしっかりとされているものであればパークセンターでご判断いただき実施されるものも当然ある。そのため、森の会議に持ち込まれる話は結構難しいものが多い。例えばラジコン飛行機を飛ばしたいという企画については、ただ遊びのために飛ばすというのはできないが森の定点観測という目的であれば可能である、ということを森の会議の中で話し合い導き出して実施に至った。また、犬の競技会を開きたいという企画には、委員がコーディネートされた森の文化祭で実施させていただいた実績もある。20人ということで地味に見えるかもしれないが、毎回変わった方々にご参加いただき、提案を持ち込んでいただいており、コーディネーターとしては「みんなで企画を育てていきましょう」という雰囲気づくりに取り組んでいる。毎月第一土曜午前中に開催しているので、皆さんにも是非ご参加いただきたい。
- 会長 : 森の会議で練られた企画を指定管理者に持っていった際に「出来ない」と言われても是非ご参加いただきたい。

非頑張っていただきたい。管理者は前例や条例で押さえようとする。そのように押さえられてしまうと面白い企画が全部つぶれてしまうので、そのような時は念を押して頑張ってほしい。前例がない、管理者が難しいと考えているような企画を出来るだけ持ち込むというくらいの迫力のある会に森の会議がなるとよい。管理者へお伺いを立てるのではなく、提案してやってあげるというようになっていただきたい。

- 委員 : 森の会議を通さず直接公園へ持ち込めるような企画は別として、ボランティアで何かしたいという人々を集めたいと考えられているのであれば、一番大事なのは NPO 団体や市民活動団体である。尼崎にも中間支援団体がたくさんあるので、声をかけていただき、社会福祉協議会やボランティアセンターなど他とのつながりを持っていただかないと、森の会議という集まりがある事すら知られないままである。私の所にも「こんなことしたしたいけど、どこに行ったらいいか」というような相談をたくさん受けるが、その時に「森の会議に行ったら？」といえるようなものになってほしい。
- 会長 : 一度、資料1のような形で、通年の活動状況をまとめたパンフレットを毎年作成してはどうか。そうすれば、「自分達も同じようなことが出来ないか」ということを考えていただけるきっかけになる。事務局でもご検討いただきたい。
- 委員 : 気運の醸成について、広報計画の作成が全て継続となっている。実施されたアンケート結果をどのように分析し、行動計画改定案にどのように反映される予定なのか。
- 事務局 : この協議会の中でも森構想の認知度について調べてみる必要があるというご意見をいただいたことも踏まえて、今回は試行的に実施したものである。回答者数もそれほど多いものでもなかつたため、これをもとに何か推し測ることは難しいと考えている。ただ、母数は少ないながらも阪神南地域をみると、「名前だけでも知っている」という人を含めても認知度は6割という結果から、残りの4割は全く知らないという現実は大きなものとして受け止め、更なる森構想のPRを取り組んでいきたいと考えている。その具体的な策までは入れ込めていないが、イベント開催回数の増加やそのお知らせをより広範囲に周知する、様々な媒体を活用するなどにより、認知度の向上を図っていきたい。
- 委員 : 確かに回答数が少ないとすることもあるが、そもそも回答しようという気になるかどうかかも関心があるかどうかを計る視点となる。
メディアの世界も様変わりしており、若い世代の間では You tube で活躍する You tuber と呼ばれる人々が注目されている。たとえばこの You tuber をコーディネートして中央緑地での森づくりの PR をしてもらう、動画の内容については森構想と全く関係のない内容というわけではなく、森づくりというテーマに沿った内容にしてもらうなどといったことも考えられないか。
- 会長 : 今のご意見をどのように実現するかを是非考えていただきたい。
ここからも阪神高速道路を通る観光バスが見えているが、高速バスに乗っている人が中央緑地を見たときにどのように感じているのだろうか。丹波並木道中央公園では、電車から見えるところに目立つように県立公園の整備中の看板を立てている。ローテクではあるが、このように観光バスの乗客が中央緑地を見て、「面白いことをしているんだな」

と思えるような仕掛けはできないか。

- 委員 : それをするなら桟橋が適しているのではないか。先程、Google Map の話をしたが、航空写真などで上から見たときにあそこに尼崎 21 世紀の森というように書かれていると非常にわかりやすい。何も使われていないのであれば、それくらいには役に立つではないか。
- 会長 : 納税者に対する説明責任を果たしているというように、前向きに検討していただきたい。納税者の皆さんのために緑地を作っているということの PR のネタにしてもらえばよい。看板を設置するくらいであれば安いものであろう。
- 委員 : 我々は森をつくる側の立場として、アマフォレストの会にもご協力いただきながら植樹活動を定期的に実施している。10月10日に植樹祭を開催予定である。我々の中でも、森を「つくる」だけでいいのかという想いもあり、一人でも多くの人にここで森づくりをしているということを知ってほしいということから、県民センターにもご協力をいただき、10月10日に「おはようパーソナリティ（ABC ラジオ）」の道上氏を呼び、公開放送を行う予定である。これは、県として森づくりを進めているということを放送機関としてもご理解いただいたうえで、年1回の公開放送の場所として選んでいただき、ご協力いただくこととなった。先週ごろから番組内でも宣伝されており、当日は数千人規模のリスナーの方々が来られることが予想される。このような場も活用して公園利用者になっていただくとともに、番組の中でも「なぜこのような森をつくっているのか」といったことを発信してほしいとお伝えしており、森構想を1人でも多くの人にご理解いただけるような働きかけをあわせて行っている。当日会場に来られない方々でもラジオを聴いていただければ、中央緑地での森づくりの活動について1人でも多くの方に伝えることができると思うので、森構想の周知 PR も兼ねて情報発信をお願いしたい。
- 委員 : アンケートについて、試行的とはいえ実施されたことは大変良いこと。それぞれの施策についても、世の中の情勢を踏まえて子育てや環境資源・エネルギーといった視点を取り入れられており、関係者の方々には改めて敬意を表したい。その上で、このアンケートを見ることは大変重要なと考える。「行ったことがない」人が 47.6% ということは、1回でも来た事がある人が半分もいるということ。施設でみると尼崎スポーツの森のプール利用が多いかと思うが、これは成功例であり多くの人が来られている。これらの人々を中央緑地までつなぐということも重要であるとともに、やはりアクセスの充実が大事である。周辺にはトラックも多く、子連れのお母さんなどにとって平日に車で来るのは恐いと思う。市はよく考えていただき、リンリンロードを整備されていて良いことだと思う。しかし、リンリンロードを通って中央緑地まで来るのは少し遠いので、道中に少しづつ何かがあって、それらを楽しみながら徐々にこちらまで来られるような工夫が必要である。また、パンフレットには森の遊具とあるがまだできていない。中央緑地にも何かないと足を延ばしてもらえないで、足を延ばしてもらえる特徴をつくることが、優先順位としては先になると考える。1回しか来たことがない場所では自分達の場所という気持ちがわからず何かしようという気にはならないため、リピーターとして何回も来てもらえるようなものを整備する必要がある。何回か来て愛着が湧いてくると「私もゴミを拾おうかな」と思うようになる。ここまで来てもらう手段と、何回でも来たいと思

ってもらえるような子ども用の遊具やランニング・ジョギングしやすい環境づくりなどが必要である。私はドッグランがあっても良いと思う。そうして何回か来ていただけるようになると、森の会議も大きなものになるかもしれない。また、宣伝という話題について、今回のマラソンは良い企画である。ルート上の各所で近代遺産や堀などのまちの資源を紹介できれば認知度も上がる。さらにそのマラソンコースが自然とランニングコースになるかもしれない。いずれにせよ、まずは中央緑地まで来てもらうこと、一度ではなく何回も来てもらうことに、あまりお金をかけずに取り組むことが優先順位としては先である。

会長 : 私は、基本的には公園での犬の放し飼いは好きではなかったが、ドッグランという形で仕切りをつくらず、広大な範囲で思いっきり犬を放して遊べるようなことも検討されてはどうか。日本には一切そのような放し飼いができる公園は無く、東京の公園の例でも大規模なドッグランを設置している程度である。一方、アメリカでは「グリーンドッグプログラム」という、公園において犬を放して遊ばせてよい時間帯を限定して設けるというプログラムが始まっている。中央緑地であれば、例えば17時以降、利用者が責任をもってやるのであれば犬を放してもよい等とすることは考えられないだろうか。以前、兵庫県警察本部前の駐車場を一時ドッグラン利用できるようにされていたことがあった。その例のように有料化して使えるようにすることも考えられる。

また、神戸市では電動レンタサイクルの普及に取り組まれており、駐輪場が3箇所から始まり現在5ヶ所に広がっていて、最終的には15ヶ所まで広げる予定である。ここではネットワークを活用した最先端のシステムが導入される予定であるが、そのしくみの提案検討を平均年齢30歳前後のベンチャー企業が担当されており、このようなベンチャー企業がたくさん出てきている状況を考慮すると、尼崎でもレンタサイクルや電動サイクルが使えるようになり、中央緑地に充電できる場所を設置すれば、委員のご意見のように、自転車でここまで来て駐輪場に止めて、ジョギングをする、というようなこともできるようになる。

最後に、行動計画改定案の3頁、「美しさ」、「元気さ」については情緒的ですばらしい書き出しで始まっているが、「誇り」、「発信」については記述されていない。上記2つが「かつて」から始まるのであれば、下2つは例えば「これから」というような書き出しで名文を是非入れていただきたい。7頁までのところは大変きれいにまとめていただいた。しかし、3,4,5,6頁までに「生物多様性」というキーワードが見られない。人間のための空間づくりについては「美しさ」、「元気さ」、「誇り」、「発信」という形で一生懸命書かれているが、生き物とか共生とかという言葉が無く、後ろで急に生物多様性というキーワードが出てきている。また、本日の資料のチラシでも「郷土種」ということが書かれているが、地域種を用いることについても記述がない。これらのキーワードが3頁あたりから出てきて、5,6頁へ展開していくば、100点満点のものになる。このように、7頁以降で新しいキーワードがたくさん出てくるが、それらが導入部分で欠落しているため、補強していただきたい。なお、この郷土種ガーデニングコンテストの講師は淡路景観園芸学校の一期生であるが、とても頑張っておられ大変面白い人物である。環境大臣との対談も予定されており、環境省も注目している貴重な人材であるから、定期的に来ていただけるよう、是非大事にしていただきたい。

■閉会